

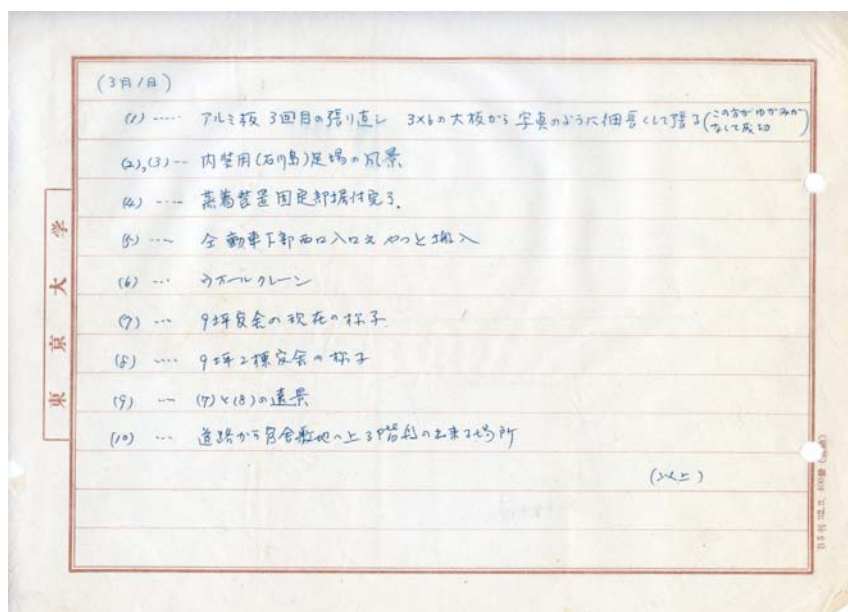
国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 東京天文台 100 周年記念誌資料—その 3-32-3 岡山天体物理観測所建設工事写真**

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞 346 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料—その 1—」、349 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料—その 2—」、353 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料—その 3—」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱 3 個に入っていたので 1 箱目を—その 1—、2 箱目を—その 2—、3 箱目を—その 3—とし、その内容のリストを作成し報告した。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いもののかつてにピックアップして書いている。今回は 3 箱目の 32 項目の 1960 年（昭和 35 年）3 月 2 日報告分（2 月 28、29 日撮影）、3 月 2 日撮影分について報告したい。第 353 号のリストには、

32. 横 A3 なめこ表紙でつづった岡山建設時のアルバムの一部

3 月 1 日付の送り状のある写真 10 枚である（写真下：3 月 1 日付の送り状）



写真(1)について送り状には、「アルミ板 3 回目の張直し 3 x 6 の大阪ら写真のように細長くして張る（この方がゆがみがなくて成功）」と書かれており、ドーム外壁のアルミ張に苦労した様子がうかがえる。写真の脚注にも「アルミ 3 回目の張り直し」と書かれている。写真(2)～(3)の脚注には「内装用足場の風景」とある。送り状には「内装用足場（石川島）の風景」と石川島の工事であることがわかる。

写真(4)の脚注には「蒸着装置固定部据付完了」とある。写真(5)の脚注には「蒸着装置駆動車下部西入口え搬入」と書かれている。この表現は筆者が判読した書き方にしたが、

書かれている通りに書くと「全動車下部西口入口えやっど搬入」となっている。写真(6)の脚注には「ウォールクレーン」と書かれている。



写真(1)



写真(2)



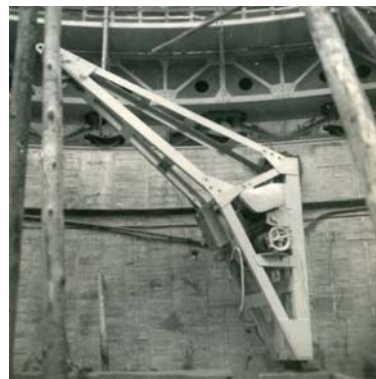
写真(3)



写真(4)



写真(5)



写真(6)

写真(7)～(10)は、鴨方駅から500mほどのところに建設された官舎の工事風景である。写真(7)の脚注には「九坪官舎の現状の様子」、写真(8)には「九坪二棟官舎」、写真(9)には「(7)(8)の遠景」とある。写真(10)の脚注には「道路から官舎敷地に上る階段のできる場所」とある。



写真(7)



写真(8)



写真(9)

筆者は1961年(昭和36年)3月1日に岡山天体物理観測所に就職した。これらの工事写真からちょうど1年後である。官舎は当初、事務主任官舎、技術主任(石田五郎氏)官舎の1戸建て2棟、清水技官官舎は2軒長屋になっていた。もう1棟、9坪の官舎があった。



写真(10)



写真(11)



写真(12)

写真(10)までが3月1日の送り状にある写真である。

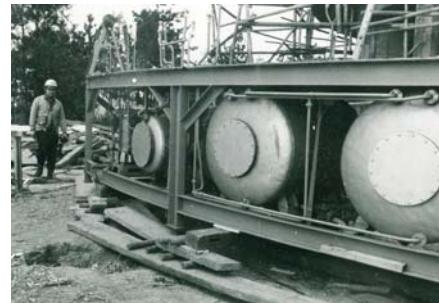
写真(11)からは別のシリーズの写真であり、これが15枚あるので、これらを載せておく。



写真(13)



写真(14)



写真(15)

写真(11)の脚注には「北ピアー・・・」と書かれているのだが、この5文字は判読不能である。写真はクーデ室屋上に方向にあるスリットと観測台である。写真(12)には脚注はないが、スリットの開口をバックにした観測台である。写真(13)の脚注には「現場監督ブリ」とある。荷物の上に立っている監督ブリを気取っているのは事務主任の矢野十郎氏である。写真(14)の脚注には「3月3日現状」とあり、写真(15)の脚注には「トロにて運搬の処」と書かれている。写真(15)は蒸着装置の原水タンク、純水タンクのユニットをコロを使って移動させている様子であろう。



写真(16)



写真(17)



写真(18)

写真(16)の脚注は「3月3日現状、エプロンアルミ張り」、写真(17)の脚注は「3月3日

観測台上から写す」、写真(18)の脚注は「メッキ室前にて」である。続く 7 枚の写真には脚注がない。



写真(19)



写真(20)



写真(21)



写真(22)



写真(23)



写真(24)



写真(25)

写真(26)はドームの外壁の梯子であろう。



写真(26)

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp